

第1号 稲作管理特報

平成30年4月20日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

育苗管理は換気の徹底で、活力の高い苗に仕上げましょう。

また、品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月15日を中心とした田植えと、適正な植付本数・植付深さの確保、70株/坪植え及び浅水管理で、初期分けつの発生を促し、穂数の確保に努めましょう。

1. 4月下旬以降の育苗管理 ～換気を徹底する～

- ・かん水は、毎朝1回たっぷり行いますが、フェーン時など床土が白く乾き、葉がまき始めたら、すみやかにかん水をする。
- ・田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け外気に慣らす。ただし気温が5℃以下になると予想される場合は閉める。
- ・「ばか苗」は必ず抜き取り、抜き取った苗は放置せずに廃棄する。

2. 代かき ～ 除草剤の効果をも高める～

- ・代かきは浅水で、稲わらをしっかりすき込むとともに、ほ場の均平に努める。
- ・代かきは田植えの2～4日前に行う。
- ・代かき後の濁り水は、ほ場外に流さない。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去する。

※代かき時に、水田から基肥一発肥料などの被覆殻が流出しないように注意する

3. 苗箱施薬剤の散布 ～ 苗箱施薬剤は、除草剤と間違えないように散布する～

- ・田植え3日前～田植え当日に、薬剤を均一に散布（1箱当たり50gを厳守）。

早生品種（「てんたかく」）	エバーゴールド箱粒剤
「コシヒカリ」ほか（「富富富」を除く）	ルーチントレス箱粒剤

- ・散布後は苗に付いた薬剤を払い落とし、軽く水をかける。
- ・育苗後に育苗ハウスで野菜を栽培する場合、ハウス内での散布は行わない。

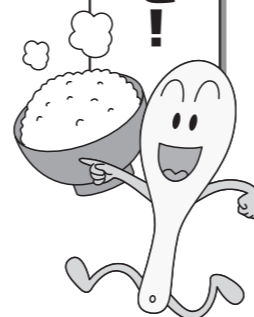
4. 基肥 ～ 適正な基肥量を施用する～

※コシヒカリの場合

施肥体系	肥料名	施用量 (kg/10a)
一発体系	Lpssコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
分施体系	基肥206号	30 (側条)

- ・春に堆肥を1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥する。

70株植えと浅水管理で初期分けつの確保と「穂数型稲」への誘導を！

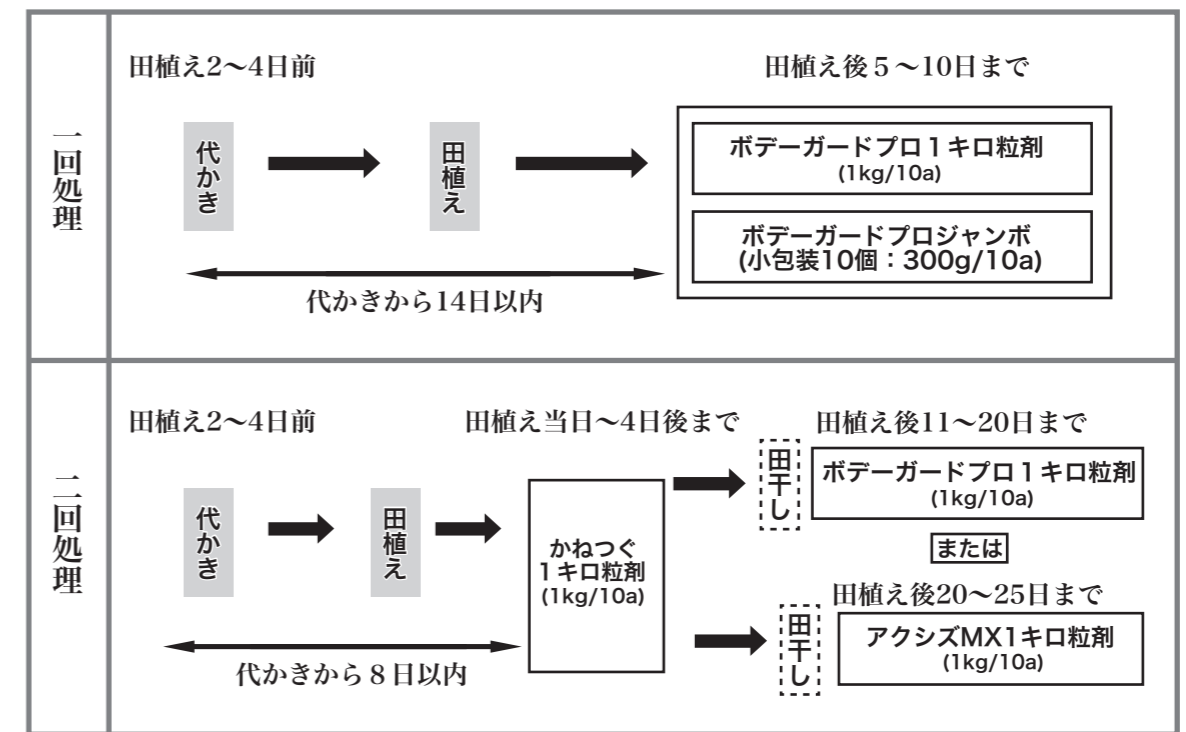


5. 田植え ～ 適正な植付けと水管理で、穂数の確保に努める～

- ・栽植株数は坪当たり70株とし、初期分けつと穂数の確保に努める。
- ・田植え時は、ほ場ごとに肥料の施用量を必ず確認する。
- ・植付深さは3cm、植付本数は株当たり3～4本となるように調整する。
- ・田植え直後はやや深水とし、活着後は2～3cm程度の浅水管理に切り替え分けつの発生を促す。
- ・入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努める。

6. 除草剤の散布 ～ 使用方法を厳守し、適期に散布する～

- ・散布前に5～6cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つ。
- ・水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと水を入れ、田面が露出しないようにする。
- ・散布後7日間は落水やかけ流しは行わない。
- ・【二回処理の場合】、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制する。



＜かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、次のことに注意する＞

- ①漏水の多いほ場では使用しない。
- ②軟弱苗の場合、田植え同時処理は控える。
- ③極端な浅植えにならないように調整する。
- ④田植え後は、直ちに入水する。